



上勝町の「葉っぱビジネス」から見る高齢化社会を「いろどる」要素とは？

チーム：松田A（松田ゼミ）

1 はじめに

研究背景

日本では高齢化とそれに伴う問題が深刻になりつつある。高齢者が活躍する徳島県上勝町でフィールドワークを行い、同町で行われている行われている「葉っぱビジネス」（いろどり事業）には収入を得られることに加えて高齢者の生きがいになる要素があるのではないかと考えた。

研究目的・意義

「葉っぱビジネス」の取り組みから、高齢者の社会参加と生きがいにつながる要素を分析し、ますます進展する高齢社会において、誰もが輝ける社会の実現への一助とする。

2 上勝町の基本情報

徳島県勝浦郡上勝町

- ・人口：1408人/738世帯（2023年9月1日現在）
- ・面積：109.63km²
（88%が森林うち80%が人工林）
標高100～700m
- ・高齢化率：**52.06%**

➔ 高齢化の進む典型的な過疎地



3 「葉っぱビジネス」とは？

- ・『彩（いろどり）』と名付けられたつまものを栽培・出荷・販売する農業ビジネス
→いろどり社会の構築
（華やかで活気に満ちたまちづくり運動の推進）
- ・生産者として300人ほどが従事
- ・農家の**平均年齢は75歳**、最高齢は96歳
- ・**女性や高齢者**でもできる
- ・年間売り上げ2億4千万円
（トップランナーの**年収は約2000万円**）
- ・150種類の植物、300種類の商品
（アジサイ、モミジ など）



4 考察

日本での老後に対する見方

① 老後レス時代
…老後が消えていく時代
（70歳定年の努力義務、一億総活躍）

② 余暇活動を楽しむ
老いを受け入れて、無理せず
好きなことをして生きよう

／ 誰もが輝ける社会の実現のために ／



5 結論

高齢者の生きがいになる要素として「選択肢」「自己成長」「出番と評価」が挙げられる。これらによって、高齢者が無理せず楽しく働ける機会の提供を実現する。葉っぱビジネスを事例とした「個」を重視した働き方は、単に働き続けるだけでも、のんびり過ごすだけでも得られない生きがいを創出できる。

参考文献
 ・鈴木俊博 (2015). 『稼げる観光：地方が生き残り潤うための知恵』。ポプラ社
 ・横石知二 (2009). 『生涯現役社会の作り方』。SBクリエイティブ。
 ・日経ビジネス (2022) 「2025年問題 超高齢化社会が経済や社会保障にもたらす課題」
 [https://business.nikkei.com/atcl/gen/19/00081/010500302/].
 ・朝日新聞 (2019) 「(耕論) 老後レス時代 いつまで働けばいいの 横石知二さん、宮本太郎さん、李金龍さん」、12月14日[https://xsearch.asahi.com/kiji/image/?1698668911904].